

令和7年度 学校評価 小学校結果

令和8年3月末 学校教育課まとめ

No.	学校名	1 中期的目標	2 今年度重点目標	3 学校自己評価結果				6 学校関係者評価			5 総合	表示以外 の評価分野		
				No.	分野	評価項目・取組内容	取組状況改善方策	評価項目	実施方法	総合				
1	精道小学校	自ら学び、自ら歩む 心豊かな子の育成	(1)「安心・安全」な学校づくりの推進 (2)共感的な子ども理解にもとづく生徒指導の充実 (3)資質・能力を育む主体的・対話的な深い学びの創造 (4)現代的な諸課題にも対応する教育課程の編成と改善 (5)たくましい心身を育む体力づくりと健康教育の充実 (6)防災教育を柱とした、命と人権を大切にす心の教育の充実 (7)主体的・自発的な児童活動の充実 (8)保護者・地域と連携した特色ある開かれた学校経営の推進	2	1	授業研究	1	・対話を通して、子どもひとりひとりが生き生きと学び、深い学びを生む授業を目指した。そのため、児童の学習意欲を高めること、肯定的な教室の文化をすることに留意した。	B	・外部講師を招聘しての授業研究会を行うことができた。また、学年団で授業研究を行い、一人一授業の実践を行うことができた。 ・研究テーマを追究するため、各学年での「聴き合い・学び合い」の授業実践交流を継続におこなった。 ・次年度も、主体的対話的で深い学びの研究を軸に、本校の課題にあった講師に指導を依頼する。	・対話を軸に研究を進めているが、対話そのものが目的化してしまう傾向にあったため、来年度は児童の疑問から対話を促す授業づくりを研究する。 ・教員評価より、いわゆる「深い学び」の達成に課題があるとなったため、新学習指導要領を見据えた「深い学び」について、さらなる研修を進めていく。	保護者評価と教職員評価の運動も含めて学校運営協議会等地域評価と合わせて協議された。来年度は児童の思いも反映できるように実施方法も検討していく。	・探究的な学びの充実が今後の課題として挙げられた。 ・地域や保護者による支援活動によって学びが豊かになっていることが評価された。 ・震災から30年を迎える中で、行事の意義を再確認し、命の尊さを学ぶ教育として継続する必要性が共有された。 ・教職員の働き方改革について教育の質を維持しながら、教職員の負担軽減を図る工夫を検討していく重要性が共有された。	人権教育の推進
2	宮川小学校	学校教育目標『共に生き 自ら学び 創造する子ども』の育成 ～笑顔育てる～	1 地域力を活用し、学校情報発信(学校HP・学校だより等)による信頼関係構築 2 基礎的・基本的な知識技能を習得し、対話を重点にしながら、自ら進んで学ぶ子どもの育成(関わり合い、学び合う子どもの育成) 3 いのちと人権を大切にす心の教育の充実	2	1	学校運営	1	地域に信頼される学校づくり	B	学校HPや学校だよりにおいて、学校の様子を保護者や地域の方々に公開することができた。校外学習や宿泊行事など、普段と違う様子も見ていただけたようにした。登下校の見守りやブックマーム等、ふだんから多くの方々にお世話になっているということを全校朝会などで子どもたちに紹介する取り組みを行った。今年度の宮小ふれあい祭りは、児童主催として子どもたちが手作りのお店をだし、地域の方をお招きし楽しんでいただいたり、交流給食をしたりと本校ならではの取組が実施できた。	地域の方が見守りに立っていたり、学校と連携してふれあい祭りを開催していただくことなど知らない保護者も多い。今後も、学校から保護者への啓発を続けていく。ふれあい祭りで子どもたち主催ということでも楽しい時間だった。地域としても地域から出せるお店を協力するというご意見もいただいた。	・保護者アンケートの結果を集約・分析し、次年度の実践に生かそうとしている。 ・ミマモルアンケートによる回答と紙媒体での回答と保護者が都合の良い方を選ぶようにしている。回答率は昨年を引き続き70%を超えており、来年度も続けていく。	・学校行事を通して、子どもたちの育成に尽力している。 ・子ども一人一人が色々な場面で生き生きと活動している。 ・保護者ボランティアによる美化活動がすごく良い。 ・子ども主催のふれあい祭りの行事はとても楽しい時間だった。子どもたちの発想の素晴らしさに感心した。 ・「笑顔が一番！宮川小」の合言葉が児童にも浸透しており、学校が明るい。	学習指導
3	山手小学校	学校教育目標「自ら考え 判断し 創造する子の育成」を実現するために、「考え 判断 創造」のどの行動においても、「相手のことを考える」を基準に置いた行動ができる子どもの育成に努める。	1 相手意識をもった「きく(聴く・聞く)」ことができる子どもの育成 2 互いに認め合い、共に生きる子どもの育成 3 自ら考え、正しく判断し、行動できる子どもの育成	2	1	学力の向上	1	・子どもの「きく」力をつける。 ・課題解決に向けた効果的な学習活動となる手立てを考える。	B	・「きく」力について、各学年の実態を把握し、そこから見えてきた課題について、どのような手立てを講じて、指導するのかについて授業推進委員会で話し合いを進めた。 一人ひとりの公開授業における指導案に、「きく」力をつけるための指導内容を記載するとともに、教育アドバイザーの多賀一郎先生をお招きして研究会を実施した。 ・「課題解決に向けた効果的な学習」とは、問題解決学習をどのように仕組むかである。そのために、互いに「ききあう」(聴く、聞く)を中心とした授業改善を継続的に行った。	・「きく力」の段階、「話す力・きく力」の10か条、「話す力・きく力」をつけるための指導方法などを随時更新し、学校全体での共通理解を図る。	・アンケートの実施方法等については、特に意見なし。	・今年度の取り組みとして成果がある自尊感情を高める取り組みについて、今後も充実させていくことが大切。 ・先生がしっかりと子どもたち状況に目を向けることで、子どもたちの様子は変わってくるので、丁寧にかかわっていくことを継続してほしい。	心の教育の充実

4	岩園小学校	学び合い 支え合い 関わり合い ～対話あふれる場の創造～	1子どもが主体的に取り組む授業づくり 2確かな人権意識・感覚を身に付け、共生社会の構築に向けて、主体的かつ意欲的に取り組む子の育成 3自己肯定感を高め、自分の夢や目標など将来について考えられる子の育成 4自分で正しく判断し、行動できる子の育成	2	1 子どもたちが主体的に取り組む授業づくり	1) 個別最適な学びの推進 2) 探究的な学びの推進 3) 協働的な学びの推進	B	1) オープンクラスウィークをおこない、教師が互いに授業を見合ったり、日頃から授業について話したりする機会を設けている。 2) 一斉型の授業だけではなく、子ども自ら課題を選択したり、必要に応じて周りの友達と協力して学んだりするなど、子どもに委ねる授業づくりに取り組んだ。それらを実践するためのミニ研修会や実践交流を月1回程度実施した。また、先進校の教育実践視察を積極的にに行った。 3) ScTNを活用してクラス全体の子どもの学びに向かう主体性を把握すると共に、配慮が必要な児童への個別の声掛けを行った。	・ミニ研修会やお互いの授業を見合うことにより教師が学び合って授業力を向上させようとする取り組みをしている。委員会主催の研修や校外研修にも積極的に参加し、自己研鑽を積むことができた。 ・子どもが選択する授業づくりをめざして各学年に委ねる形で実践を行った。年度末に交流し、来年度に向けて推進していく方向性を共通理解できた。来年度は、総合・生活科を中心にサキドリ事業も有効に活用しながら今年度の研究をさらに深めていく。記号接地やオーセンティックな学びをいかにつづけていくかがキーワードである。	保護者・児童からのアンケートを集計・分析し、次年度の課題を示して教職員・保護者に周知している。教職員アンケートで部会ごとに分析および新たな方向性を示し、業務改善や校務分掌などについても全体の場で共通理解している。	インクルーシブ教育の推進を保護者への啓発を含めて積極的に進めている。一斉型の指導だけではなく、子ども達が自ら課題を見つけ学ぶ「探究型の学び」を意識して取り組むようとしている。来年度から取り組むサキドリ事業によって子どもたちの主体性の向上や対人関係の向上が見込まれる。また、教員の余力についても十分期待できる。学校でこなしている教育実践も随時HPで発信している。	互いに認め合い、尊重し、関わり合う良さが感じられる学級づくり	
5	朝日ヶ丘小学校	「共に学び 支え合う子ども」の育成	1 教育の基礎基本を大切に、安心して、落ち着いて過ごせる学校にする。 2 学び合い、支え合いを大切にできる学校をつくる。 3 一人ひとりをかけがえのない存在として認め、その良さや可能性を伸ばし、自尊感情を高める。 4 体験活動や読書を大切に、心豊かな子どもを育てる。	2	1 学習指導	2	B	・教師は児童が共に学び合い支え合うために「聴き合いの輪」を築いた授業を行っているか。 ・学び合う環境づくりを一層充実させるために、学習規律の保持と、信頼関係の構築された学級経営が行われているか。	・年間3回の全校授業研究会を実施。指導助言講師の指導の下、授業研究会を行った。 ・全員が一授業公開をし、授業力向上に努めた。 ・効果的な学習環境を目標し、教職員が共通理解し、学習規律の確立につとめた。引き続きノーチャイムを実施し、児童が時計を見て行動し、5分前行動が定着している。	・全校保護者会を年度の当初に開催し、校長から今年度の学校の方針と取り組みの状況と説明している。 ・学校の課題(いじめの未然防止等)について、保護者と合同で研修し、共通認識を生むことができた。	・令和8年1月～2月に保護者・児童・教職員に15項目のアンケートを実施した。 ・児童・保護者の評価の違いについて報告した。	・人ととのつながりや体験活動から学ぶ機会を豊富に設けている。 ・教師が児童のことを考え、向上心を持っていることがうかがえる。 ・超過勤務の増加について対策が必要。特に学習指導以外の業務の削減に取り組むことが求められる。	体験活動の充実
6	潮見小学校	学び合い、支え合う 心豊かな子どもの育成	1 思いやりのあるやさしい子の育成～あいさつ・言葉・助け合い～(多文化共生教育の充実) 2 思いや考えを聴き合い、学び合う子どもの育成～一人ひとりの学びに寄り添って～ 3 家庭・地域との連携を深め安全・安心な学校運営の実施	2	1 教育課程	1と2	B	①聴き合える子どもを育てるためにペア・グループを活用し、子どもたちの関係をつなぐことを切りに授業研究を行った。幼稚園教諭とも教材研究をしたり、専門事後研究会での協議を深めたりすることで、より研究テーマに沿った取り組みを行うことができた。 ②縦割り班の編成、児童会役員との公約の取組、園工展の全校作品の制作、各委員会の生活朝会での生活の話などの活動をすることができた。また、就学前施設との交流も多学年で実施することができ、同年代同士では見せない姿を見ることができた。 ③児童生徒支援教員を中心に全教職員で日本語指導の充実を図るための体制づくりやこきりルームの環境整備等に取り組むことができた。 ④学年や学校からの要望に応じ、児童の活動に保護者も参加しながらサポートできることにより、学校の現状を知ってもらう機会となり、更なるサポート内容を考えるきっかけとなった。	多くの専門家(大学教授等)や地域の方が来校され、学校の様子を見学し、意見を聞く機会を設けることができた。 なかよし(縦割り)活動については、掃除をなかよし班で行うことで、日常的な異学年活動が実施できた。 外国にルーツのある子どもたちへの支援は、研究したことを校内で共有することで、一人ひとりにあった学びの充実につなげていく必要がある。 PTAを通じて、保護者の方、地域の方の児童の学びへの関わりが増え、学校を知ってもらう機会となった。 今後も、積極的に学校や子どもの様子を見てもらい、対話することによって、学校運営に生かしていくことが大切である。	教職員による学校評価、保護者によるアンケートに加え、児童の振り返り、各行事ごと実施した保護者からのアンケート調査と学校関係者評価委員会等で意見を聞いて総合評価をした。	多くの方に、来校していただき、子どもたちの学校における様子について幅広く意見を聞き、学校・保護者・地域と連携しながら子どもにとってより良い教育活動を進めていく。	防災・安全教育	

7	打出浜小学校	<p>○学校教育活動全体を通じて、命を尊び人権を大切にす る心や規範意識を育てる。 ○すべての児童が自らを高め、支えあうことができる学級(学年)づくりに取り組む。</p>	<p>1打って出る力(打出力)パワーアップ! 「やるきいっぱい!」 「えがおいっぱい!」 2自ら進んで行動しよう! 「やってみよう!」 3進んであいさつしよう! 「おはよう」「さようなら」「ありがとう」</p>	2	1	教育課程	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を用いて、子どもたちが互いに教えあう場面を増やす。 ・子どもたちの学ぶ意欲を高める授業づくりを工夫する。 ・授業改善により生じた時間を、子どもたちに向き合う時間にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して、調べたことをグループや全体で共有しながら学びを深めた。 ・児童の実態を踏まえ、成長段階に合わせて、委ねる授業をテーマに実践研究を実施した。 ・休み時間等を利用して、一緒に遊んだり、イベントを企画したりすることで児童と関わる時間を増やし、信頼関係を深めた。 	<p>・タブレットを使いこなしたり、キャリア教育、異学年との交流、委ねる授業などに寄り添う教育の姿が見られる。</p> <p>・学校は、子どもたちのために力を尽くしている様子を感じる。図工展の見学では、学校生活での楽しい様子が伺えた。</p>	<p>保護者を対象としたアンケートを年1回、大きな行事毎に保護者アンケートを実施している。また、学校運営協議会員にも年1回アンケートを実施しており、資料収集は十分行われている。</p>	<p>子どもたちが安心して学校生活を送り、学習や行事に意欲的に取り組める教育活動が行われている。また、自由進度学習の中で児童が主体的に学ぼうとする姿が見られる。さらに、地域との交流を考え、行事の時の声かけがあり、学校に親しみを感じる。</p>	生徒指導
8	浜風小学校	<p>全教育課程を通して「自ら学び 共に生き 創造する子」の育成に努める。</p>	<p>1 学び合う子の育成 2 お互いに認め合い、共に生きようとする子の育成 3 主体的に創り出し、活動できる子の育成</p>	2	1	学力の向上	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業やスキルタイムの中で、基礎学力の定着・向上を図る。また、タブレット有効活用の研鑽を積んでいく。 ・「相手意識」を持った言語活動を中心に授業を組み立て、「学び合う」学習環境を整える中で、主体的・対話的で深い学びに取り組んでいく。 ・より本に親しむ子を増やすべく、読書活動の推進をおこなう。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートだけでなく教職員アンケートにおいても、基礎学力の定着については、昨年度から若干評価が下がっている。すべての学習の礎なので、来年度も引き続き基礎学力の定着に力を入れていく。タブレットの活用については、本年度の授業研究推進の重点目標の一つとして取り組んだ。活用率は市内の他の学校と比べても高い。 ・学び合うことを意識した授業改善を進め、土壤を作ることで、主体的に学ぼうとする児童が増えてきた。 ・図書室の本の年間一人当たりの平均貸出し冊数はシステムの入れ替えや蔵書点検で少し下がった。しかし、司書種の読み聞かせなど多くの工夫を取り入れているので今後も継続して取り組んでいく。タブレットが当たり前になっているせいか、学校だけでなく家庭において本を手にする子どもは決して多いとは言えないことは課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、子どもの状況理解をしっかりと把握した上で、子どもたちにとってわかりやすい授業をおこなってほしい。 ・読書は子ども時代に習慣化させておきたいので、小学校での取り組みが重要である。読み聞かせ活動などの取り組みを行い、読書好きの子供を育ててほしい。 ・SNSについては、学校の指導だけでなく、家庭での教育も大切である。来年度も保護者向けの情報モラル研修を実施していただきたい。 	<p>・高い評価が維持されている。特に「学校は、子どもにとって楽しみなところである」の高評価が今後も維持できるよう、取り組みたい。回答率も70%以上と昨年度より上がっているが、まだ、紙媒体での依頼であることから来年度以降、電子での回答にしていきたい。</p>	<p>・保護者アンケート・教職員アンケートの結果及び分析をもとに、学校関係者にご意見をいただき、評価を行っている。</p>	心の教育の充実